

大学教育研究センター等の運営形態、業務内容、 教職員構成の推移

松塚ゆかり（大学教育研究開発センター）

深野 政之（大学教育研究開発センター）

平成23年8月2日(火)と3日(水)の2日間にわたり、東京農工大学と一橋大学との共催で、一橋大学国立キャンパスにおいて大学教育研究センター等協議会が開催された。

大学教育研究センター等協議会（以下「センター等協議会」）は、高等教育やその制度に関する意見交換や共同研究、人事交流等を行うことを目的とし、平成8年に国立11大学（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、新潟大学、信州大学、京都大学、神戸大学、鳥取大学、広島大学、九州大学）を会員校として設立された。平成23年度現在、会員校は36校である¹。本学が本協議会の会員となったのは平成17年、その後は毎年センタースタッフが積極的に協議会に参加し、他大学との情報共有を図っている。

同協議会の開設当初の事業内容は、①研究交流のための大会開催、②情報交換のためのニュースレター等の発行、③紀要出版等、とされているが、その後、共同研究の開催、外的資金への応募など、多様な活動を展開している。開催当時より事務局は広島大学高等教育研究開発センターに置かれ、同センターは現在も幹事校を勤める。全国大会は平成21年度まで広島大学で開催されていたが、22年度以降持ち回りとなり、22年度は東北大学、23年度は一橋大学が東京農工大学とともに主催大学となった。

本年度のセンター等協議会のテーマは、事務局である広島大学並びに先回の開催大学である東北大学から助言をいただいた上で、「大学教育研究センター等の運営形態、業務内容、教職員構成の推移」とした。現在設置されているセンター等組織の活動は多岐にわたるが、

- ア) 高等教育研究拠点型
- イ) 共通教育運営型
- ウ) 学部を含む全学包括的運営型
- エ) 学習・教授法支援（FD）型
- オ) 学生支援型
- カ) IR（評価・分析）型

と、大きく括ることができる。これら、センターの異なる「位置づけ」や「役割」を検討し、そこに至った経緯、その位置づけにおける強みや課題を、各形態の代表例を有する大学に発表をしていただくという趣旨であった。事前に全会員大学を対象にアンケートを行った結果、共通教育運営型を代

¹ 詳細は事務局である広島大学高等教育研究開発センターの以下のサイトを参照されたい。

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/viewer.php?i=217>

表する大学として香川大学、学部を含む全学包括的運営を行っている金沢大学、学習支援面で新規事業を展開している北海道大学、保健管理センターを学生生活支援の一環として位置づけた東北大学、学生調査を先導する東京大学に発表していただくこととなった。以下は各発表の要約である。

「**共通教育運営型**」の代表例として、香川大学・武重雅文センター長より、共通教育スタンダードの設定、共通教育の到達基準とカリキュラム・マップの作成、共通教育コーディネーター制等の経験について報告があった。現在、「教養学部構想」に代わる地域貢献型の新学部設置が求められているとのことであった。

「**学部を含む全学包括運営型**」の代表例として、金沢大学・西山宣昭教授より、学部教育改革を支援するセンターの活動について報告があった。学類のDP明確化、カリキュラムマップと成績評価との関連に関するFD支援、協調学習設計に関する研究など、第2期中期計画に基づいた質保証システムの構築を支援しているとのことであった。

「**学習・教授法支援（FD）型**」の代表例として、北海道大学・斉藤準氏より、今年度より導入された「総合入試」制度の対策として設置されたアカデミック・サポートセンターの活動について報告があった。学生の主体的な学修を保障するための学修・学習支援体制を確立したことにより、これまで稼働率が高く、利用満足度も高いことが紹介された。

「**学生支援型**」の代表例として、東北大学・羽田貴史教授より、保健管理センターの学生支援活動について報告があった。東北大学高等教育開発推進センターは、入口から出口までの学生支援を行う総合的な活動の一環として、保健管理センターを重要な一部門としており、保健管理センターの統合による学生相談との連携、健康教育活動、社会連携活動、教育研究活動といったメリットが紹介された。

「**高等教育研究拠点、IR（評価・分析）型**」の代表例として、東京大学・小林雅之教授と劉文君氏より、東京大学・大学総合教育研究センターのIR活動について報告があった。①高等教育改革動向・教育政策分析、②大学評価・ベンチマーキング・ランキングの研究、③大学財政研究、④学生調査等の活動について紹介があり、大学の戦略的計画策定・実践に向けた課題が提示された。

5つの大学から発表をいただいた後、形態別に5つの分科会に分かれ、代表校の発表に関する討議とともに、参加大学のセンター活動、学習支援活動等に関する実践報告を行い交流した。

本年度からは国立系大学だけでなく、私立大学の大学教育研究センターも会員として参加していただくことを検討した。その試みの一環として、本協議会設立時の会長であり、現在くらしき作陽大学学長の有本章先生が主催されている私立大学ネットワーク「全国高等教育研究所等協議会」を通じて、複数の私立大学にオブザーバーとして参加していただいている。

参加者アンケートでは、代表校発表、分科会ともに「役立つものであった」との回答が圧倒的であり、特に分科会について、少人数で代表校発表について話し合うことができ有意義であったとの感想を多くいただいた。

全国から多数の参加をいただき、運営にご協力いただいた皆さまに、あらためて感謝申し上げます。
来年度は、愛媛大学を会場校として開催する予定である。

添付資料：

- *全国大学教育研究センター等の運営形態、業務内容、教職員構成に関するアンケート
- *協議会開催ポスター
- *協議会プログラム

全国大学教育研究センター等の運営形態、業務内容、教職員構成に関するアンケート

質問1 貴センターの運営・活動形態は以下のどのタイプに該当しますか。次の選択肢からあてはまるものを選んでください。(複数回答でも結構です)

- ア) 高等教育研究拠点型
- イ) 共通教育運営型
- ウ) 学部を含む全学包括的運営型
- エ) 学習・教授法支援 (FD) 型
- オ) 学生支援型
- カ) IR (評価・分析) 型
- キ) その他 ()

質問2 代表的活動項目をご記入ください。(適宜、行の追加をお願いします。)

- 1.
- 2.
- 3.

質問3 貴センターの構成員について、センター長、教員、専門職員、事務職員等の専門分野あるいは主な担当業務と、センター外にも所属する場合はその部局、学部(研究科)、機関等をお教えてください。お名前は記載してもしなくても結構です。(適宜、行の追加をお願いします。)

- | <u>お名前(任意)</u> | <u>ご専門</u> | <u>担当業務</u> | <u>センター外所属</u> |
|----------------|------------|-------------|----------------|
| 1. | | | |
| 2. | | | |
| 3. | | | |
| 4. | | | |
| 5. | | | |
| 6. | | | |
| 7. | | | |
| 8. | | | |

質問4 貴センター設立以後、運営形態、業務内容、教職員の構成などについて、主だった改編や変更があった場合は、その概略をお教えてください。

以上です。ご協力ありがとうございました。6月3日(金)までにご返信ください。

平成 23 年度 大学教育研究センター等協議会

平成 23 年度全国大学教育研究センター等協議会は、8 月 2 日(火)と 3 日(水)の両日におたり、一橋大学と東京農工大学の共催により、一橋大学国立キャンパスにて開催します。

本年度の全国大学教育研究センター等協議会のテーマは、「大学教育研究センター等の運営形態、業務内容、教職員構成の推移」とし、センターの異なる「位置づけ」を紹介していただき、そこに至った経緯、その位置づけにおける強みや課題を、各形態の代表例を有する大学に発表をしていただきます。

プログラム

8 月 2 日(火) 10:00~17:00 協議会(本館 21 番教室)

ご挨拶 山内 進 一橋大学学長
 幹事校ご挨拶 山本眞一 広島大学高等教育研究開発センター長
 主旨説明 筒井泉雄 一橋大学大学教育研究開発センター長

代表校による発表

香川大学 「教養学部構想」
 金沢大学 「学部教育改革支援」
 北海道大学 「アカデミック・サポートによる学習支援」
 東北大学 「学生生活支援としての保健管理センター」
 東京大学 「学生調査、大学評価、国際ランキングの動向研究」

運営形態別分科会(第 1 講義棟 101~105 教室)

8 月 2 日(火) 17:30~19:30 懇親会(佐野書院)

ご挨拶 有本 章 全国高等教育研究所等協議会代表
 くらしき作陽大学学長
 歓迎のご挨拶 山内 進 一橋大学学長

8 月 3 日(水) 9:30~12:00 協議会(本館 21 番教室)

分科会の発表

質疑応答、ディスカッション

全体のまとめ 岡山隆之 東京農工大学大学教育センター長

協議：次年度開催校、新規加入承認ほか

会場

一橋大学 国立・西キャンパス

JR 中央線 国立駅下車 南口から徒歩約 6 分

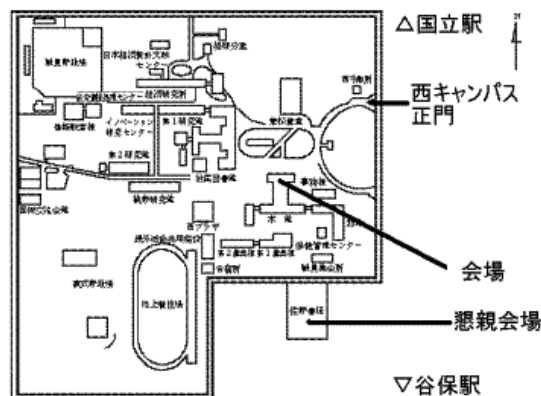
◆会 費：無料、◆懇親会費：5,000 円

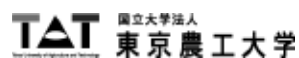
連絡先 一橋大学・大学教育研究開発センター

メール：edu-dcgp.g@dm.hit-u.ac.jp

電話：042-580-8996 FAX：042-580-8997

<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~gp22/event.html>





平成 23 年度
大学教育研究センター等協議会
プログラム

2011 年 8 月 2 日 (火) ・ 3 日 (水)

一橋大学国立・西キャンパス

ごあいさつ

一橋大学 大学教育研究開発センター長
筒井 泉雄

本年度大学教育研究センター等協議会にご参加いただきありがとうございます。本協議会でも取り上げており、また大学として避けて通れない問題の一つである、学習支援、環境、現場について、一席、杞憂を述べ、挨拶とさせていただきたいと思います。

文部科学省は、平成 20 年 3 月に小学校学習指導要領を改訂し小学校 5・6 年で週 1 コマ「外国語活動」を実施することとしています。さらに、文科省の小学校外国語サイトに掲載されています。文章は「外国語活動においては、音声を中心に外国語に慣れ親しませ、,, 云々。コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として様々な活動を行う」と続いています。

???様々な活動???何が、始動し始めたのでしょうか??? 文科省の英語のページをさらに探ると「さて、標記の件について、「語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム）」においては、各地方公共団体が特別職の地方公務員として外国語指導助手（ALT）を任用（民法上の「雇用」に相当）しているところですが、,, 云々」と続き「外国語指導助手の契約形態について（平成 17 年）」として各都道府県・指定都市教育委員会外国語教育担当課長宛に ALT の積極採用を促す通達を出しています。初等教育で外国語活動を始動させるために、3 年かけて準備しての事です。この ALT 導入市町村数は、平成 22 年文科省調査では 2000 近くになっています。

杞憂はここからですが、杞憂の元は現在の教員力で外国語を教えることに限界があると、どうやら文科省が判断したらしいことにあります。初等教育の現場での、外国語に対するスタンダードの形成です。これは、果たして初等教育の現場だけで収まるのでしょうか？中学校学習指導要領（外国語）においては「特に聞くこと及び話すことの言語活動に重点をおいて指導すること」と強調され、高等学校学習指導要領（外国語）においては「中学校における音声によるコミュニケーション能力を重視した指導を踏まえ、,, 云々」という、初等教育を受けて発展させる事を意図していると読める記述があります。スタンダードの継承です。平成 20 年の 5 年生は現在中学 1 年生で、6 年後には大学へ入学し、このプログラムの成果が問われ始める可能性と、大学がこのプログラムの継承を指導される可能性もあります。スタンダードの継承。ゆとり教育の場合は学生の学力低下に終始して、学生が大学に持ち込む物はありませんでした。今回はそれを反転させた構図となっています。スタンダードの継承は、大学がすでに持っているスタンダードとの両立を余儀なくされる可能性も示しています。大学自身そのとき、新しいスタンダードを受け入れる余力があるのか、また今までの教育とどのように組み合わせしていくのか、今は五里霧中です。

学生が真っ白な素材ではなく、背景をもって入学し、大学が連続性を継承する。もしこのようなプロセスが生じた場合、真の独立した語学教育を教育機関としての大学が行っていいのかを、今しばらく見守るしかありません。盆に返らぬ不肖の覆水なのか、落ちてこない空なのかをしばらく見つめてみたいと思います。

その意味でも、学生を未来永劫、見守り続けられるセンターであり、協議会であることを願って筆を置かせていただきます。

協議会日程

8月2日（火） 10：00～17：00 本館21番教室／第1講義棟101～105室

9：30 受付開始

10：00 開会

10：05 挨拶 山内 進 一橋大学学長

10：15 事務局長挨拶 山本眞一 広島大学高等教育研究開発センター長

10：30 昨年度協議会会長挨拶 木島明博 東北大学高等教育開発推進センター長

10：35 今協議会の主旨と行程 筒井泉雄 一橋大学大学教育研究開発センター長

メンバー校代表による発表

10：45 香川大学 「教養学部構想」

11：15 金沢大学 「学部教育改革支援」

11：45 北海道大学 「アカデミック・サポートによる学習支援」

12：15 （昼食）

13：30 東北大学 「学生生活支援としての保健管理センター」

14：00 東京大学 「学生調査，大学評価，国際ランキングの動向研究」

分科会

14：50～16：50 会場：第1講義棟101～105室

懇親会

17：30～19：30 会場：佐野書院

8月3日（水） 9：30～12：00 本館21番教室

9：00 受付開始

9：30 再開

9：35 分科会結果発表 各分科会10分

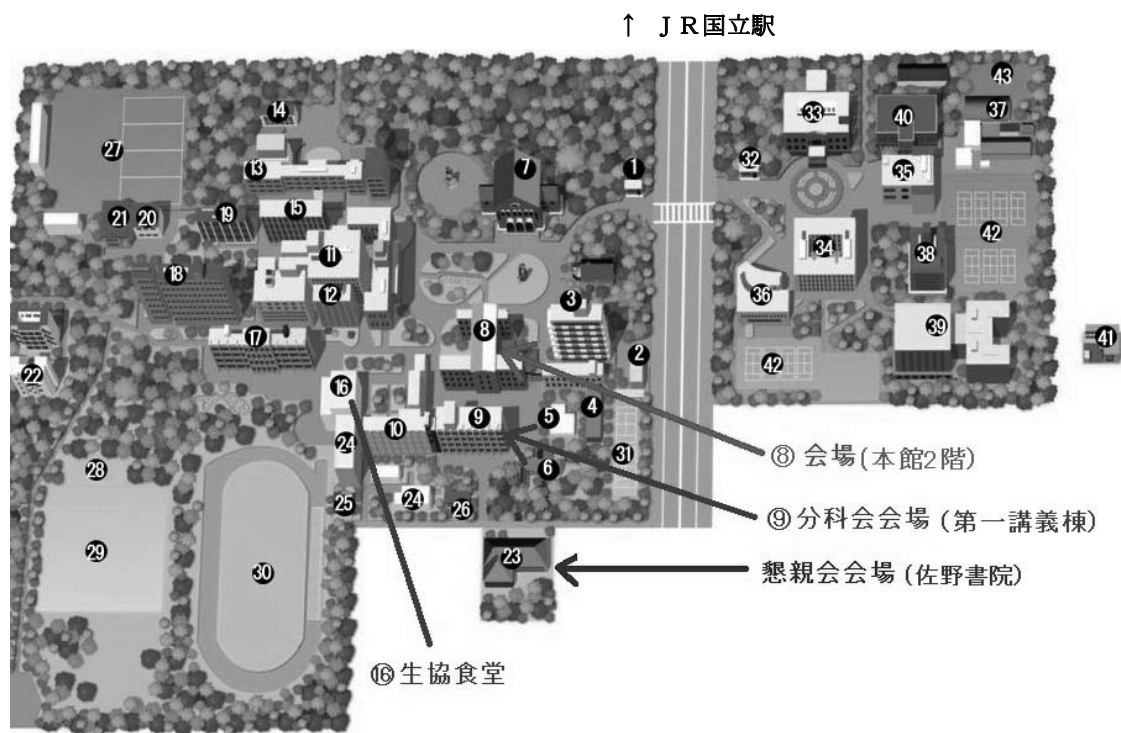
10：25 質疑応答，ディスカッション

11：05 全体のまとめ 岡山隆之 東京農工大学大学教育センター長

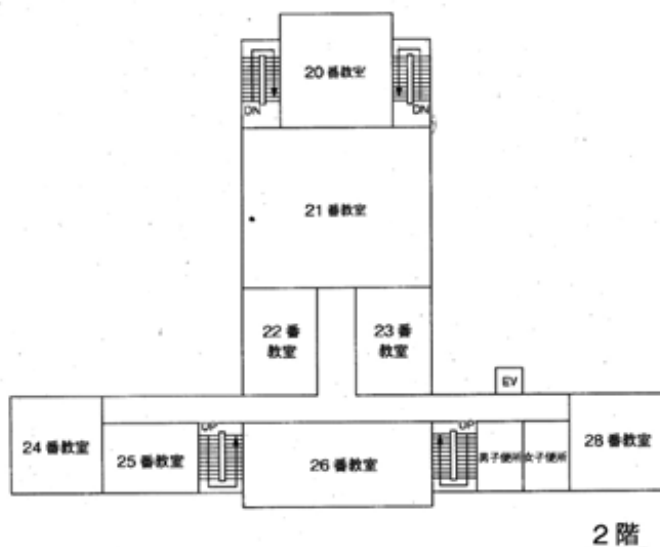
11：15 協議：幹事校報告，次年度開催校承認

11：45 閉会挨拶 落合一泰 一橋大学副学長（教育・学生担当）

協議会会場案内図



本館



昼食は、キャンパス内の生協食堂または国立駅周辺の飲食店をご利用ください。
 受付で配布している「国立駅周辺地域地図(Town Friends)」もご利用下さい。

代表校報告

香川大学 「教養学部構想」

香川大学は、平成7年に一般教育部を改組し、平成14年に共通教育部と調査研究部とからなる大学教育開発センターが共通教育の運営を担ってきた。平成15年には外国語教育部を追加した。本学は、センターを通じて、これまで共通教育スタンダードの設定、共通教育の到達基準とカリキュラム・マップの作成、共通教育コーディネーター制の導入を行ってきたが、より抜本的な共通教育の充実を図るために、現在は教養学部設置を構想している。新学部においては、共通教育を担当する他、独自の専門分野を設けて、実践的教養の開発や副専攻制を導入する計画である。センターと新学部との役割分担については、今後、検討が行われる。

金沢大学 「学部教育改革支援」

金沢大学の教育開発、教育改善において、学域・学類（平成20年度より学部・学科から改組）、研究科といかに連携し、センターがいかなる役割を担うのかについて平成15年4月のセンター設置以来、模索と実践を続けてきたが、第2期中期計画の策定にセンターが関わり、いくつかの提言を行うことができた。これに伴い、センターの重点活動事項を中期計画に沿って明確化した。本報告では、学類のDP明確化、カリキュラムマップと成績評価との関連に関するFD支援、協調学習設計に関する研究など、平成22年度における第2期中期計画に沿った重点活動の概要を述べる。

北海道大学 「アカデミック・サポートによる学習支援」

北海道大学では、今年度より「総合入試」制度が開始された。この制度で入学した学生にとっては、自らの専攻選択のために、入学後の主体的な学修がこれまでも増して重要となる。アカデミック・サポートセンター（ASC）は、そうした主体的学修に対する助言と支援を行うために設立された組織である。本報告では、ASCでの修学・学習支援体制と、これまでの活動状況を紹介し、実際の担当者の視点で見た課題や今後の展開について考えたいと思う。

東北大学 「学生生活支援としての保健管理センター」

東北大学高等教育開発推進センターは、高大連携、入試開発、高等教育研究、全学教育の実施、キャリア支援、学生相談をその使命とし、入口から出口までの学生支援を行う総合的な活動を行っている。保健管理センターは、その1部門として重要な役割を果たしている。本来、人間の発達には、知的・道徳的・身体的要素を含み、全面的なものであるが、日本の教育学と教育実践では、明治以来スペンサー流の知育・徳育・体育に区分され、相互の関係が切り離されがちであった。保健管理センターの活動を紹介し、再考する機会としてみたい。

東京大学 「学生調査、大学評価、国際ランキングの動向研究」

東京大学・大学総合教育研究センターにおける調査・研究活動について、Institutional Research (IR)に焦点をあてて紹介する。まず、IRの定義そしてIRを実践する組織のあり方を検討した後、大学改革基礎調査部門が行う①高等教育改革動向・教育政策分析、②大学評価・ベンチマーキング・ランキングの研究、③大学財政研究、④学生調査について紹介する。最後に、IRのあり方について、大学の戦略的計画策定・実践並びに大学のベンチマーキングと絡めながら、さらに掘り下げて検討する。

分科会のご案内

第1分科会「共通教育運営型」(第1講義棟 101室)

現在、多くの大学教育センターが共通教育の運営を担っていますが、予算の削減・担当者不足・教員の研究志向は、従来型の共通教育の維持を難しくしています。香川大学のよう、新学部を設置によって、共通教育に新機軸を打ち出すことも考えられますが、多くの大学では、カリキュラムにメリハリを付けることによって、開講科目数のスリム化を実現しているのが現状です。この分科会では、各参加者の大学における共通教育カリキュラムの特色を紹介していただき、共通教育の意義について意見交換をしたいと思います。

第2分科会「学部を含む全学包括運営型」(第1講義棟 102室)

全学の学士課程教育の包括的な運営(支援)に携わるセンターの活動内容と、今後の課題を議論していただく分科会です。例えば、ディプロマ・ポリシーの策定など、学部(専門)教育の改革・改善の支援に関与する際、センターとしてどのような役割を果たすのか、などの問題にご関心のある方々のご参加をお待ちしています。

第3分科会「学習・教授法支援(FD)型」(第1講義棟 103室)

学習支援、教授法支援に携わるセンターの活動内容について議論していただく分科会です。大学教育の実質化が求められている中で、学生の学習の質を保証(保障)するために、どのような取り組みができるのかを話し合います。TA研修や新任教員研修についても、参加大学の実践報告を通して交流したいと思います。

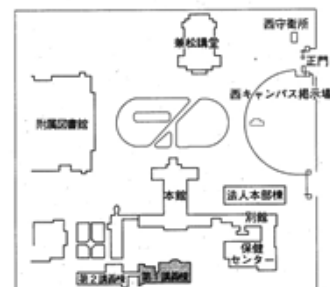
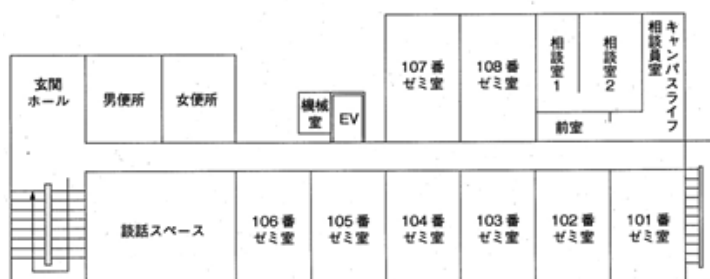
第4分科会「学生支援型」(第1講義棟 104室)

学生支援を担うセンターの活動内容について議論していただく分科会です。学生支援そのものに加えて、学生支援と正課、正課外の教育を制度として、内容として「切り結ぶ」あり方についても考えます。

第5分科会「高等教育研究拠点、IR(評価・分析)型」(第1講義棟 105室)

本分科会では高等教育研究の中でも、大学教育研究センター等が行うIR活動について議論します。IRを企画・実践するための技術的・組織的インフラ、IRを発展的に展開する上で必要とされる技能、大学組織におけるIRの位置づけなどについて検討します。

第1講義棟 1階



懇親会のご案内

日時： 8月2日（火）17:30～19:30

会場： 一橋大学 佐野書院

会費： 5,000円（当日、協議会受付または懇親会場受付でお支払いください。）

《 次第 》

司会：二宮 祐（一橋大学 大学教育研究開発センター）

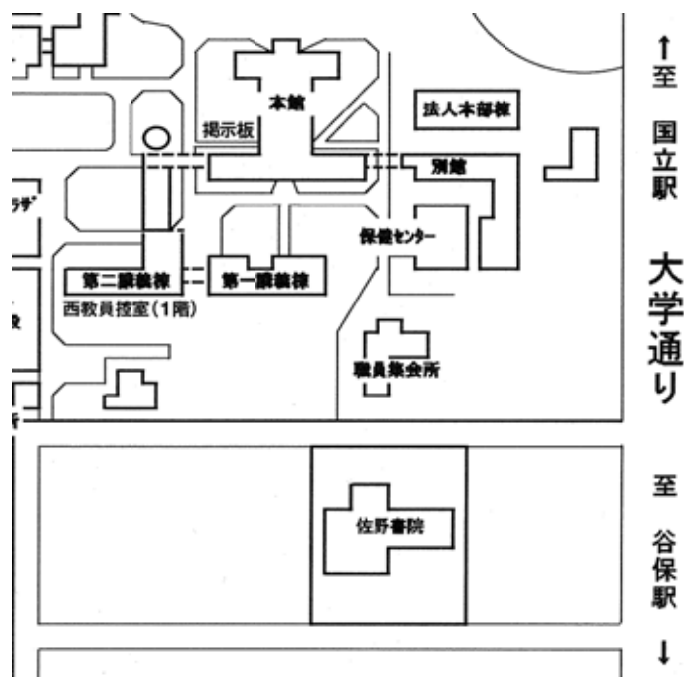
歓迎の挨拶： 山内 進 一橋大学学長

ご挨拶： 有本 章 全国高等教育研究所等協議会代表／くらしき作陽大学学長

乾杯： 瀨瀬 明伯 東京農工大学副学長

（歓談）

懇親会会場案内図



※懇親会場へは、分科会終了後（17時過ぎ）にご案内します

平成 23 年度大学教育研究センター等協議会準備・運営委員会

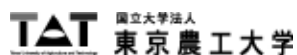
委員長	松塚 ゆかり	(一橋大学)
委員	吉永 契一郎	(東京農工大学)
	深野 政之	(一橋大学)
	朴澤 泰男	(一橋大学)
	二宮 祐	(一橋大学)
	加藤 由香里	(東京農工大学)
	及川 京子	(一橋大学)
	嘉村 友作	(一橋大学)
	栗飯原 匡伸	(一橋大学)

大学教育研究センター等協議会 事務局

広島大学高等教育研究開発センター

事務局長 山本 眞一

事務局幹事 大膳 司, 秦 由美子, 村澤 昌崇



発行日：2011 年 7 月 29 日

発行者：平成 23 年度大学教育研究センター等協議会 準備・運営委員会

〒186-8601 東京都国立市中 2-1 一橋大学・大学教育研究開発センター内

E-mail：edu-dcgp.g.@dm.hit-u.ac.jp

URL：http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~gp22/

TEL：042-580-8996 FAX：042-580-8997